

# 栃木県情報サービス産業協会に対する オーダーメイド型能力開発セミナーの実施

ポリテックセンター栃木 高橋 俊雄  
(栃木職業能力開発促進センター)

## 1. はじめに

栃木県情報サービス産業協会（以下協会）は、平成10年度から人材高度化支援事業の一環として傘下の事業主に対して能力開発支援を実施してきた。また、平成13年度以降は県内の創造的業務推進事業として当センターが実施したオーダーメイド型能力開発セミナー（以下セミナー）について、企画の経過、内容、問題点、改善した点について報告する。

## 2. 実施セミナーについて

平成12年度から平成14年度はJava言語に関するセミナーを、平成15年度はオープンシステム系に関するセミナーを実施した。

### 2.1 実施状況

(1) 平成12年度から平成14年度

平成12年度から平成14年度までに実施したJava言語に関するセミナーの実施状況と受講者数の推移が

表 1

年度	コース名	1回目	2回目
12	Java1	12名	なし
	Java2	12名	なし
13	Java2	12名	なし
14	Java2	19名	8名
	JDBC	16名	9名
	Servlet / JSP	20名	12名

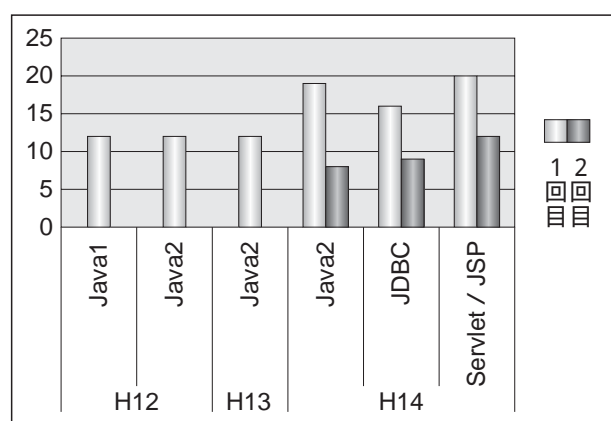


図 1

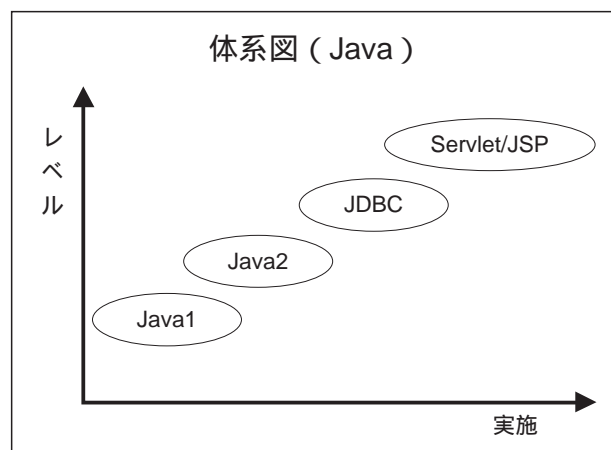


図 2

表 1 と図 1 である。また、そのセミナーの体系図が上記の図 2 である。

この体系図からわかるように平成12年度から平成14年度にかけて実施したJava言語に関するセミナーは導入から発展的・実践的な内容へと体系的・段階的に技術の習得ができるように実施した。

この実施したときの問題点は平成12年度が2コースを実施したのに対し、平成13年度は1コースのみの実施となったことである。これは、年度当初は参加予定であったが急な仕事等で参加できなくなり、受講者が集まらず中止せざるを得ないといったことが発生したためである。

また、Java言語が初めての人が段階を踏まず発展的な内容を受講するなど受講者とコース内容のミスマッチも発生した。

そこで、平成14年度はこれらの問題に対処するために3コースを2回ずつ実施した。

実施順はJava2 JDBC Servletを2回ではなく、Java2 JDBC Java2 Servlet JDBC Servletと一部を交差させて実施した。

ServletからJDBCを活用することもあるため、先にJDBCに関する技術を習得しておくほうがよいが、それぞれの技術を習得するという目的では、Java2の受講後はJDBCとServletのどちらを先に受講しても大丈夫なことからこのような順番で実施した。

この結果、受講したいが定員オーバーで受講できない、業務等の都合で順番に受講できない等の前年度に発生した問題が解決された。

また、平成14年度はすでに2年間Java言語に関するセミナーを実施し、各社内においても伝達研修ができておりJava言語を活用できる人材の育成ができてきたという理由から、前年まで実施していた導入部分の実施を見送り、発展的内容から実践的内容へと、より業務に役立つ内容のセミナーコースを設定し、実施した。

表2が平成12年度から平成14年度の3年間で実施したセミナーのコース名とその目標である。

#### (2) 平成15年度実施

平成15年度はオープンシステム系に関する次の5コースを実施した。

- ・Linux実践技術
- ・Linuxイントラネットサーバ構築
- ・PostgreSQLプログラミング
- ・PHPを用いたWeb - DBシステム構築

表2

コース名	Java1 Javaプログラミング 1
目標	Java言語が初めての人を対象に基本からアプレットの作成技術の習得
コース名	Java2 Javaプログラミング 2
目標	Java1の受講者を対象にGUIプログラミングとファイル入出力技術の習得
コース名	JDBC Javaデータベースプログラミング
目標	Java言語とリレーショナルデータベースシステムを活用するために必要な技術の習得
コース名	Servlet / JSP Javaサーバサイドプログラミング
目標	Java言語を用いたサーバサイドプログラミング技術の習得

#### ・TCP / IP技術概論

ネットワークの基幹技術であるTCP / IP技術とオープンシステムのなかで注目を集めているOSであるLinuxをベースとして、Linuxを用いたイントラネットの構築、データベースシステムの活用に必要なSQL言語の習得、データベースシステムとWebシステムを連携したシステム構築に必要な技術の習得を目的とした5コースである。

図3が各コースの関係をイメージした技術マップである。

仕上り像としては、Linux イントラネットのネットワーク構築にかかわるものと、Linux PostgreSQL PHPとWebシステム開発にかかわるものの2つとなっている。

順番はLinux イントラネット PostgreSQL PHP TCP / IPである。

TCP / IPはリテラシとしての意味合いもあり、知識として必要であるが、最初に習得する必要もないことからこのような順で実施した。

次の図4から受講者数をみるとそれぞれ、20人・19人・18人・16人・18人と平均して各コースとも18人の受講者となっている。これは、最近のオープン

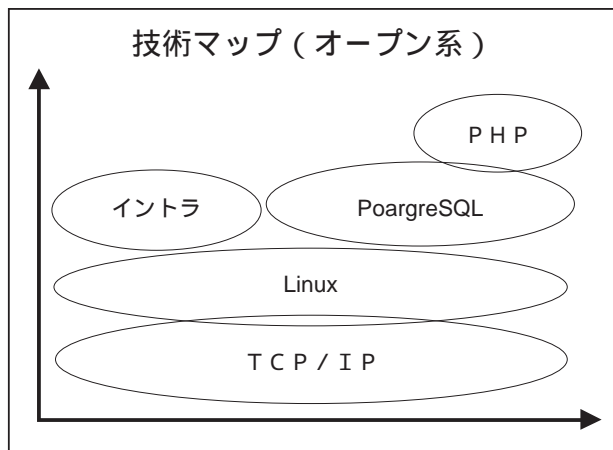


図3

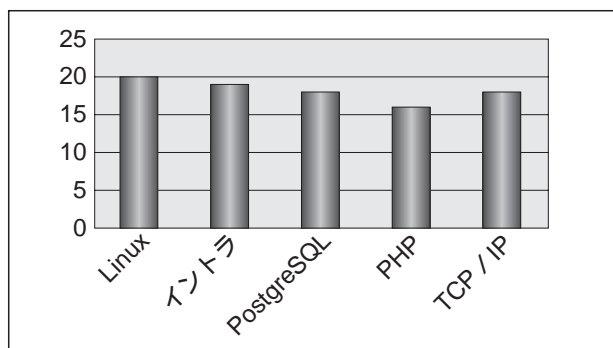


図4

ソース人気を現す結果となっている。また、表3が平成15年度に実施したセミナーのコース名と目標である。

## 2.2 企画・実施

これらの実施してきたセミナーの企画は、最初に人材高度化支援事業の一環として協会より傘下企業のエンジニアを対象にJava言語に関連するセミナーの依頼があり体系的な2コースを企画・実施したことに始まる。

当時から当県においてもJava言語に関する業務が増加する傾向にあり人材高度化推進委員会で提示を受けたのが始まりである。

また、当施設で実施している離職者訓練の内容においてもデータベースシステムに関する内容の訓練が行われている。

最初のセミナーの企画は、まず当センターが内容

表3

コース名	Linux Linux実践技術
目標	Linuxが初めての人を対象にUNIXに関する知識・技術の習得
コース名	イントラ Linuxイントラネットサーバ構築
目標	Linuxを用いたイントラネットサーバの構築技術の習得
コース名	PostgreSQL PostgreSQLプログラミング
目標	PostgreSQLを用いたデータベース知識とSQL言語の習得
コース名	PHP PHPを用いたWeb - DBシステム構築
目標	PHPとデータベースシステムを活用するための技術の習得
コース名	TCP / IP TCP / IP技術概論
目標	インターネットを支える基本技術であるTCP / IPに関する知識・技術の習得

の草案を作成・提示を行い、協会側でその内容について検討してもらい調整を行った後に実施した。したがって、協会側の求める内容を実施し好評価を得ることができた。このことが、その後の継続したセミナーの実施につながった結果である。

その後は、協会の作業部会の1つである研修委員会での協議の場に参加し、企画の段階からニーズの把握に努め協会と連携を持って傘下の事業主の方々が必要としている内容のコースを実施している。

内容の検討の材料として在職者訓練カリキュラムモデル集より、内容等を抜粋して提示してそれからどのようなセミナーを実施するかアンケート調査等をもとに検討し決定している。また、その場に参加していることから実施に当たり質問等があれば説明等を行っている。

## 2.3 新たなコース設定

平成12年度から平成13年度まではJava言語に関する内容のセミナーを段階的に発展させ実施してきた。

平成14年度の受講者数をみると2回目の受講者数の減少がある。これは、3年間で各企業におけるJava言語に関する人材育成は一息ついた感があり、今後のJava言語に関するセミナーについては当施設が普段実施しているコースを受講することで対応することになった。そして、平成15年度は新しい分野の技術・技能の蓄積を目的とした人材育成を目指し、オープンシステム系のセミナーを実施することとなった。

計画時の協議において、開催時期と時間数についての要望があった。これまで、開催時期は第2四半期から第3四半期の間で実施されてきたが、第1四半期(4, 5, 6月)で実施したいということ。セミナー時間が18時間(3日間)であるがこれを12時間(2日間)で実施できないかということであった。これは、業務上3日間を研修に割くことは難しく、2日間なら都合がつけやすいという理由からであった。

開催時期については年度開始前で担当者の調整や実施場所の確保ができたことで可能であった。また、時間数については受講者がIT産業従事者であることから、実習にかかる時間はコース終了後各自で実習が可能であろうという判断から12時間(2日間)で実施した。

#### 2.4 評価と今後の課題

3年間のJava言語に関するセミナーによって、協会傘下の各企業にはJava言語を活用できる人材が育ったという評価をいただいている。平成15年度はそれまでの時間数を18時間(3日間)から12時間(2日間)へ減らして実施した。このことは事業主の方々からは人を出しやすいと大変好評であったが、受講者からはもう少し時間が欲しかったという声が聞こえた。やはりこれは、知識・技術の習得を通常業務から離れた研修という場で高めたいという気持ちの現れである。

さらに、セミナーを受講した社員と受講していない社員では3ヵ月後、6ヵ月後の伸びが違うことと、

同じようなことを社内で行うことを考えれば大変有益であるという評価をもらっている。

また、平成15年度のコースを受講している企業と平成14年度までのコースを受講している企業ではほとんどが入れ替わっている。

これは、協会傘下の各企業の規模や対象としている業務分野の差が現れた結果であると推測される。

この問題に対する妙案は今のところ無く、今後の検討課題として残っている。

もう1つの課題としては、セミナーの開催日時である。現在は、日中に設定し実施しているが、これを夜間や土日を含めて実施できないかということである。しかし、残業や振替休日の問題が発生するなどのことから実施には至っていない。

実施する側の課題として、年々高度化するセミナーへの対応である。いかに満足を得られるような内容を提供できるかが問題であり、自己の知識・技術の高度化を進めることが必須である。

できる人がいないから断るのではなく県内の施設が連携してできる人を派遣することなどで実施できればさらに満足度の向上が見込まれることから、密な連絡を取り合っている。

### 3. まとめ

コース策定の段階から協議に参加し、一緒に人材育成のためのコース設定に携われることは大きな強みであり、良好な関係が築けたことが現在のセミナー展開につながっている。また、協会の期待に応えることで今後も良い評価が得られると考える。

また、これまで実施したセミナーの周知、募集、取りまとめは協会事務局に担当して頂いており、大変感謝している。

#### 参考

栃木県情報サービス産業協会  
<http://www.tisia.or.jp/>